

## ◎高度経済成長から「経済大国」へ

### a. 安保闘争と高度経済成長

#### ① 経済の復興（「経済の時代」の幕開け）

1) 1950～ [1 **特需**] 景気…戦前の鉱工業生産高に復帰、IMF・世界銀行に加盟

2) 1955～ 神武景気…1956「2もはや戦後ではない」(経済白書)

#### ② 1950年代半ば以降、しだいに緊張緩和、平和共存の動きの進展

→1960年代…ヨーロッパによる「第三の極」形成 EECからECへ

→中ソ対立の激化、第三勢力の台頭(世界の多極化) 1955バンドン会議

#### ③ 1954 [3 **鳩山一郎**] (←追放解除) 内閣…自主独立路線を進める

1) [4 **憲法改正**] (9条改正→再軍備)の実現をめざす

2) 自主外交の進展→1956[5 **ソ連**]との国交正常化、[6 **国際連合**]加盟実現

#### ④ [7 **五十五年**] 体制の成立

・[8 **日本社会**] 党、左右両派の統一=改憲阻止・非同盟中立をめざす→改憲を阻止

・[9 **保守合同**] …自由党・民主党の二大保守政党の合流→[10 **自由民主**] 党結成

#### ⑤ 安保闘争(=「政治の時代」の終焉)

[11 **岸信介**] (←元A級戦犯) 内閣(1957)…[12 **日米安全保障**] 条約改訂をめざす

→革新勢力の強い反発→1960[13 **安保(反対)闘争**]の高揚、連日の国会包囲デモ

→アイゼンハウワー、来日を断念、条約の自然成立へ

労働運動の激化→[14 **三井三池**] 闘争など→警察力などで鎮圧される

### b. 高度経済成長

#### ① 池田勇人内閣…[15 **所得倍増**] をスローガンに[16 **高度経済成長**] 政策をすすめる

(「政治の時代」から「経済の時代」に)

→佐藤栄作内閣(1964～72)…日韓基本条約(1965)沖縄返還(1971)

#### ② 高度経済成長の本格化(1955～73)=1968 GNP、西側第二位に

→シンボルとして「新幹線」「東京オリンピック」(1964)「大阪万博」(1970)

#### ③ 日本社会構造の激変

第一次産業・農村中心の社会→第二次三次産業・都市中心の社会(産業構造の高度化)

農村から都市への人口流出(→「集団就職」など)=[17 **過疎と過密**]

農村の衰退と農業の機械化…専業農家→[18 **兼業**] 農家(「3ちゃん農業」)

(→食糧自給率低下)

#### ④ 生活環境の激変

→核家族(→高層団地の普及)

→耐久消費財の普及(消費革命)「3種の神器」→「3C」(とくにマイカーブーム)

→欧米型食生活に…米食→パン食、外食の普及→体格の向上

#### ⑤ 経済発展にともなう矛盾の激化→反対運動の激化

環境汚染…[19 **公害**] 問題(四大公害訴訟)・交通事故・大気や河川汚染  
過疎・過密

大学紛争・ベトナム反戦運動

#### ⑥ 政治の時代から経済の時代へ…体制を問う運動から、体制内の改革をめぐる動きに

賃金の急上昇→労働組合、政治闘争から経済闘争中心に、[20 **春闘**] 方式の定着

[21 **革新自治体**] ブーム

#### ⑦ 高度経済成長の背景

アメリカの繁栄(→[22 **ヴェトナム**] 戦争によりしだいに弱体化)

→[23 **日米経済摩擦**] の表面化(日米繊維交渉)

戦時体制以来の「社会主義的」手法

日本的労資慣行

### c. 低成長の時代へ

1971年 ドルショック(→1ドル360円時代の終焉→為替[24 **変動相場**] 制へ)

1972年[25 **田中角栄**] 内閣成立→「[26 **列島改造**]]」計画

・1972年[27 **日中共同声明**] →日中国交正常化

→1978 福田内閣のもとで[28 **日中平和友好**] 条約締結

・1973年[29 **オイルショック**] →狂乱物価の発生→1974 マイナス成長に

↓

1974年 金脈問題をきっかけに田中辞職

→1976年 田中、[30 **ロッキード**] 事件で逮捕される(三木内閣)

→対米摩擦の深刻化

→日本企業の構造改革(減量経営→人減らし・ロボット化)、

日本型モデルの行き詰まり、低成長の時代

→現状維持と生活維持をめざす生活保守主義の高まり→革新自治体の退潮